

平成20年度図書館情報メディア研究科プロジェクト研究 研究成果報告書

種 目	研究	萌芽	研究代表者 氏 名	松 本 紳
研究課題	人文学研究支援を目的とした貴重書デジタルアーカイブシステムの研究			
研究組織（研究代表者及び研究分担者）				
氏 名	所属研究機関・部 局・職	現在の専門	役割分担	
松本 紳	図書館情報メディア研究科 教授	固体電子論	システム構築・統括	
綿抜 豊昭	同上 教授	日本図書学	評価実験	
時井 真紀	同上 講師	バンド理論	システム構築	
研究目的				
<p>貴重書の中でも古地図に対するデジタルアーカイブ化の研究に焦点を絞る。様々な時代の古地図をデジタル化するためには、単にスキャナで古地図を読み取りデジタル画像化するだけでは意味がなく、読み取った地図を元にGIS (Geographic Information System) 化することが重要である。それにより、古地図と現代地図を重ね合わせたり、時代ごとの変遷を調べたりすることが容易になる。そこで、古地図のGIS化を試み、google earthなどの現代地図上に古地図を重ね表示するシステムの構築を目的とする。また、同時に綿抜研で研究中の「八景の成立」に関する研究支援が可能なシステムを目指す。</p>				
研究成果				
<p>各種の江戸切絵図が現在でも広く普及し残っていることから、これらに対する古地図研究支援システムを試作した。人文学で行われる古地図研究では、地理研究とは違い、地図そのものを研究対象としていることから、現代測量に合わせて古地図を変形するといった事は行わずに、変形しないままの古地図同士を比較し、どのような特徴のもとに作成されたかを調べることが多い。そこで、我々は、古地図に対するデジタルアーカイブの第1段階として、変形していない複数の古地図の比較のために、画像の透過、回転、スケーリングを比較的容易に行えるようにし、各地図の違いやデフォルメされた部分の表示などが行えるインタフェースを構築した。また、両者の地図の差分情報を取り出すことで、微妙な違いにも対応できるようにした。</p> <p>しかし、まだ改良しなければならない点があり、今後も引き続き研究を行っていく必要がある。また、今回は、古地図をGIS化するまでには至らなかったため、その方法論についても今後考える必要があると思われる。</p>				
代表的な研究発表・特許等の成果一覧、特記事項等				
<p>情報処理学会のシンポジウムで成果の一部として下記の2つを発表した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古地図研究支援システムの試作 人文科学とコンピュータシンポジウム 2008 15 p. 235-240 ・風景画「近江八景」の図像研究における画像のデータベース化及びGoogle Earthの利用 人文科学とコンピュータシンポジウム論文集 2008 15 p. 297-304 				